



2017年10月23日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03 - 5475 - 6309
<https://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598106
アウディ コミュニケーションセンター

新型 Audi A7 Sportback : ラグジュアリークラスにおけるアウディのスポーティさの代表

- デザインとテクノロジーにおけるアウディの先進性を体現した4ドアクーペ
- フルデジタルの操作システム、包括的なコネクティビティ、マイルドハイブリッド (MHEV) ドライブシステム
- ハンドリング性能と長距離ドライブの快適性を高めたグランツーリスモ

2017年10月19日、インゴルシュタット：新型 Audi A7 Sportback は、アウディの新しいデザイン言語を表現するとともに、スタディモデルの prologue で示されたデザインの方向性を具体的に示すことにより、ラグジュアリークラスでもっとも先進的なクルマになっています。ダイナミックなスタイリングと体系的なデジタル化、スポーティな走行性能、多目的に使えるスペースを備えた新型 Audi A7 Sportback は、グランツーリスモの新たな地平を切り開きます。

美しさとダイナミズムの融合：エクステリアデザイン

新型 Audi A7 Sportback のエクステリアは、スタディモデルの prologue で初公開され、新型 Audi A8 において初めて生産モデルへ導入されたブランドの新しいデザイン言語を具現化しています。大きな面とシャープなエッジ、アスリートのように引き締まったラインにより、どの角度から見てもダイナミックで先進的なスタイリングが完成しています。

フロントでは、Audi A8のものよりも低く幅広いシングルフレームグリル、細いヘッドライト、大胆な縁取りがなされたエアインレット、低く伸びたボンネットなどにより、一見ただけでもグランツーリスモとしてのスポーティな性格が伝わってきます。ヘッドライトには3つの仕様が設定されています。中間及びトップグレードのモデルでは、ライトシグネチャーがデジタル化され、細い枠で区切られた12個のLEDライトが、2進法によるデジタル世界との関連性を想起させます。ライトの最上級仕様は、アウディレーザーライトを備えたHDマトリクスLEDヘッドライトです。

長く伸びたボンネット、長いホイールベース、短いオーバーハングで構成された新型 Audi A7 Sportback は、アスリートのような造形を特徴としています。ホイールハウスの上には特徴的な膨らみが設定され、最大 21 インチまでのサイズが用意されたホイールを強調するとともに、アウディ quattro の遺伝子を持ったクルマであることが示されています。この遺伝子は、車体のプロポーションにおいても決定的な要素となっています。サイドシルエットでは、後方に行くに従ってシャープに下降するダイナミックなルーフラインが大きな特徴となっています。この大型クーペのスポーティなキャラクターは、4つの数字によって明確に示されます。すなわち、4,969mm の全長、2,926mm のホイールベース、1,908mm の全幅、それらに対して低めに設定された 1,422mm の全高です。

従来型のAudi A7 Sportback同様、リヤエンドはヨットのよう両側が細くなっています。長いハッチゲートの後端はリップ状に少し突き出した形状になっており、120km/h以上の高速では、ここに内蔵されたスポイラーが自動的に伸長してリヤのダウンフォースを高めます。アウディの上級モデルに共通するデザイン要素であるフラットなライトストリップが、それぞれ13の縦型ライトセグメントで構成された両側のテールライトを接続しています。ドアを開錠もしくは施錠したときには、リヤライトとヘッドライトにより、光のアニメーションプレイが展開され、



静止していてもダイナミックな新型Audi A7 Sportbackのキャラクターをアピールします。なお、先進的な新型Audi A7 Sportbackのエクステリアには、クロームがほとんど使われていません。エクステリアカラーには15色が用意されており、そのうちの8つは新色です。オプションのS line エクステリアパッケージを選択すると、ラジエーターグリル、フロントエアインレット、サイドシル、フロントとリヤディフューザーに手が加えられて、スタイルがさらに際立ったものになります。それらのパーツはそれぞれグロスブラックのトリムで飾られ、形状もより立体的で彫りの深いものになります。

コンセプトカーのデザインが生産モデルに：インテリア

インテリアでは、デザインとテクノロジーがユニークな形で融合しています。新型Audi A7 Sportbackの乗員は、未来のラウンジのような雰囲気強い印象を受けるでしょう。その簡潔でクリーンなデザイン言語は、緊張と緩和の絶妙のバランスによって生み出されています。水平ラインと細いインストルメントパネルにより広々感が演出されており、ドライバーに向けて少し角度が付けられたセンターコンソールが、グランツーリスモとしてのスポーティなキャラクターを強調しています。このインテリアでは、先進性、スポーティネス、直感的な操作性、洗練性という4つの価値が特に重視されています。すべてのカラー、シート張地、インレイは、新しい美意識を反映したものになっており、その点はベースモデルも、デザインセレクションやS lineスポーツパッケージも、最高級のヴァルコナレザーを採用した仕様も同様です。オプションのマルチカラーのアンビエントライトを選択すると、インテリアの輪郭を繊細な間接光で際立たせることができます。

インストルメントパネルの上方にある 10.1 インチのディスプレイ（MMI ナビゲーションプラスを選択すると搭載）にも、ドライバーに向けて少し角度が付けられています。ブラックの光学パネルにグラフィットグレーアルミの飾りフレームを用いたこのディスプレイは、使用しないときにはダッシュボードのなかに完全に格納されます。飾りフレームを支えるディスプレイのボディそのものが、芸術的な魅力を放っています。ディスプレイのユーザーインターフェイスは、クルマのドアを開けるとすぐに現れる設計で、インテリアデザインとマッチするように、外観は無駄のない簡潔なデザインになっています。あらゆるスクリーンコンテンツは、素早く登録することが可能です。

指先で操作：MMI タッチレスポンスコントロールシステムとオンラインボイスコントロール

新型 Audi A7 Sportback では、新型 Audi A8 で採用されたデジタル化戦略が体系的に踏襲されています。インテリアのアーキテクチャーは、新しい MMI タッチレスポンスコントロールシステムの操作コンセプトと巧みに融合しています。この操作コンセプトは、従来モデルの Audi A7 に採用されていたロータリープッシュボタンや、伝統的なボタンやスイッチ類に代わるもので、2つの大きな高解像度タッチディスプレイを採用しています。

そのうち上側のディスプレイは、インフォテインメントシステムを操作するためのものです。下側にある左右非対称のデザインをしたセンタートンネルのコンソールに、もうひとつの 8.6 インチディスプレイが設置されていて、ここで空調システムの操作や、文字の入力を行うことができます。ドライバーは、オートマチックトランスミッションの幅広いセクターレバーノブの上に手を乗せて休ませることもできます。

新型 Audi A7 Sportback にはヘッドアップディスプレイが設定されています。これを搭載すると、重要な情報をフロントウインドーに映し出すことができるようになります。また MMI ナビゲーションプラスを選択すると、12.3 インチの大型ディスプレイを備えたフルデジタルのオーディオバーチャルコックピットも装着されるようになります。

MMIタッチレスポンスコントロールシステムにより、タッチパネルを操作すると触感と音によるフィードバックが提供されます。またその操作は、スマートフォン同様に誰もが直感的に行えるように工夫されています。機能を立ち上げる時には、ユーザーは確認のためのクリックを、耳で聞いて指で感じるすることができます。ロジカルでフラットなメニュー構造により、様々な機



能に素早くアクセスすることができます。任意に設定ができて、自由に場所を動かせるお気に入りボタンにより、操作機能をカスタマイズすることも可能です。

オプションのオンラインボイスコントロールを使えば、操作はさらに簡単で便利になります。また、日常会話に対応したダイアログシステムが、2種類の方法で（ひとつは車載システムに記憶された情報で、もうひとつはクラウドの膨大なデータを利用して）質問やコマンドに的確に答えてくれます。

ネットワーク接続により利便性と安全性を改善：インフォテインメントとコネクティビティ

情報ネットワークと高度に結ばれた新型 Audi A7 Sportback は、その点でも長距離ドライブに適したクルマといえます。ネットワーク接続によりクルマの利便性、安全性が向上し、カスタマイズのオプションも広がっています。インフォテインメントとコネクティビティに関しては、新型 Audi A7 Sportback には Audi A8 と同じシステムや機能が設定されています。最大 7 人のドライバーが、自分のユーザープロフィールをクルマに記憶させることができます。ここでは個々のドライバーに関し 400 にも及ぶパラメーターが記憶され、それによりクルマが自動的に設定されるようになっていきます。Audi connect から提供されるオンラインサービスもさらに拡大されました。新しく追加されたサービスのなかには、アウディフリートの Swarm Intelligence を利用した Car-to-X サービスである交通標識やハザード情報の提供などが含まれます。

新型 Audi A7 Sportback に標準搭載されるインフォテインメントシステムは MMI ラジオで、その上級システムとして、MMI ナビゲーション及び MMI ナビゲーションプラスがオプション設定されています。サウンドシステムは 4 つの仕様が設定されており、トップバージョンの Bang & Olufsen アドバンストサウンドシステムを選択すると、後席でも魅力的な 3D サウンドを楽しめるようになります。

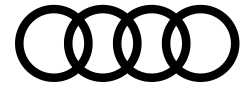
インテリジェントで便利：Audi AI の各システム

Audi A7 Sportback のドライバーは、Audi AI ボタンを押すことで Audi AI リモートパーキングパイロット及び Audi AI リモートガレージパイロットを作動させることができます。これらのシステムは 2018 年のいずれかの時点から Audi A7 の生産モデルに搭載される予定です。この機能と使うと、クルマを自律的にパーキングスペースやガレージに駐車させたり、そこから出したりすることができます。ドライバーはクルマから降りた状態でも、スマートフォンの myAudi アプリを介して機能をスタートさせることができます。その間ドライバーは、アプリの Audi AI ボタンを押し続けることで、操作を進めながらクルマの動きも確認することができます。セントラルドライバーアシスタンスコントローラー（zFAS）が、様々なセンサーからのデータを照合分析してクルマの周囲の環境モデルを常時演算しています。装備レベルによっては、最大 5 つのレーダーセンサー、5 つのカメラ、12 の超音波センサー、1 つのレーザーセンサーが搭載されることとなります。

Audi AI のシステムのほかにも、新型 Audi A7 Sportback には最大 39 ものドライバーアシスタンスシステムが設定されていて、様々な形でドライバーをサポートします。それらは Audi AI パーキングパッケージ（2018 年以降徐々に市場に投入）、交差点アシストなどを含めた City アシストパッケージ、Tour パッケージの 3 つのパッケージにまとめられています。Tour パッケージには、燃料消費を抑えるドライビングスタイルをサポートするエフィシエンシーアシスタント、従来のアダプティブクルーズコントロール（ACC）に車線維持のためのステアリング介入機能を追加したアダプティブドライビングアシスタント（ADA）などのシステムが含まれます。そのほか、すべてのドライバーアシスタンスシステムで、制御メカニズムが改善されています。

優れたハンドリングと長距離ドライブの快適性：シャシー

新型 Audi A7 は先代モデルに対して、スポーツ性と快適性の両面が改善されています。新しくオプション設定されたダイナミックオールホイールステアリング（4 輪操舵）、新開発されたエレクトロニックシャシープログラム（ECP）（シャシーの中央制御ユニット）及び改良されたエアサスペンションなどにより、敏捷性と乗り心地が大きく向上しています。新型 Audi A7 Sportback は、完成されたグランツーリスモとして、ワインディングロードではダイナミック



で俊敏なハンドリング性能を、長距離の高速走行では卓越した快適性を乗員に提供します。

フロントとリヤのサスペンションは、多くの部分がゼロから新設計されています。ステアリングの切り角が大きくなるにつれて、ステアリングレシオがダイレクトに変化する、プログレッシブステアリングが全モデルに設定されています。このシステムには新しい設計が導入され、さらに正確な路面からのフィードバックが得られるようになっていきます。最大 21 インチの大径ホイールには、255/35 タイヤが組み合わされます。ブレーキには、最大 400mm 径のディスクとアルミ製固定キャリパーを用いたシステムが設定されています。サスペンションのセットアップは 4 タイプが用意されており、スチール製スプリングを備えた標準的なサスペンションのほか、車高を 10mm 下げたスポーツサスペンション、減衰力を調整できるアダプティブコントロールサスペンション、さらに自動車高調整機能を備えたアダプティブエアサスペンションも選択することができます。

シャシーの分野でもっとも注目すべき技術革新は、ダイナミックオールホイールステアリングでしょう。この 4 輪操舵システムにより、ダイレクトでスポーティなステアリングレスポンスと高い走行安定性が同時に実現し、俊敏性と快適性という相反する問題が解消されています。ステアリングレシオは、アクティブステアリングシステムにより、速度に応じて 9.5:1 から 16.5:1 まで可変制御されます。前輪にはストレインウェイブギヤのメカニズムが採用され、ドライバーのステアリング入力に応じて、ギヤレシオが調整される仕組みになっています。後輪は、スピンドルドライブにより最大 5°操舵を行うことができます。低速では、後輪は前輪と反対の方向に操舵されて、パーキング時や市街地を走行している場合などにクルマの取り回し性を改善します。ステアリングをフルロックした場合の回転径は 1.1m 小さくなります。その一方で 60km/h 以上の速度で走行している場合には、後輪は前輪と同じ方向に操舵され、直進性や車線変更時の操縦安定性を向上させます。

オプションのスポーツディファレンシャルを装着すると、ハンドリング性能がさらに洗練されたものになります。スポーツディファレンシャルは、リヤ 2 輪間の駆動トルクをアクティブに配分するシステムで、ダイナミックオールホイールステアリングや可変ダンパー、アダプティブエアサスペンションなどとともに、ECP により一括制御されます。これらのシステムは緊密に連携するよう制御されており、クルマのコントロール性を大幅に高めています。ドライバーは、オーディオドライブセレクトシステムを介して Audi A7 Sportback のドライビング特性を調整することができますが、その場合も、快適性とスポーツ性の調整の幅は従来のモデルより明確に広がっています。

広範囲な電動化：快適性と効率を改善するマイルドハイブリッド (MHEV) ドライブシステム
新型 Audi A7 Sportback に搭載されるすべてのエンジンに、新開発の MHEV ドライブシステムが搭載され、快適性と効率を高めています。2 タイプの V6 エンジンとの組み合わせでは、48 ボルトの主電源を採用しています。リチウムイオンバッテリーとベルト駆動式のオルタネータースターター (BAS) の働きで、ブレーキング時には最大 12kW という高いエネルギー回生を可能にしています。55~160km/h の速度で走行しているときには、フリーホイールリングモードでエンジンを止めてコースティング (惰性走行) することができ、BAS を介して再スタートもスムーズに行えます。

また、スタート/ストップ機能の範囲も大幅に広くなり、22km/h 以下で作動可能になっています。標準装備のフロントカメラと連携することで、前のクルマが動き出すのを確認した場合は、まだ停止中であってもエンジンの再スタートを予測的に実施できるようになりました。MHEV テクノロジーにより、実際の走行条件で 100km 走行あたり最大 0.7ℓ の燃料消費が削減されています。

新型 Audi A7 Sportback は、当初 3.0 V6 TFSI エンジン仕様が発売されます。排気音の抑制された V6 ターボエンジンは、最高出力 250 kW (340 hp) と最大トルク 500 Nm を発生させ、0 to 100 km/h をわずか 5.3 秒で加速し、最高速度は 250 km/h に達します。新欧州ドライビングサイクル (NEDC) による Audi A7 55 TFSI のベース車の燃料消費量は、100 km 走行あたり 6.8 ℓ*で、CO₂ 排出量は 154g*です。組み合わせられるトランスミッションは、7 速 S トロ



ニックで、ultra テクノロジーを採用した 4 輪駆動システムは、状況に応じて後輪を駆動します。量産開始後、しばらくして別の 6 気筒および 4 気筒エンジンが追加される予定です。

*Audi A7 Sportback 55 TFSI quattro S tronic の燃料消費量は、7.2 - 6.8 l/100 km で、CO2 排出量は、163 - 154g/km となります(タイヤ/ホイールのサイズにより異なる)

ボディの設計コンセプト：クーペ、セダン、アバントの特徴をひとつに

新型 Audi A7 Sportback は、様々なタイプのクルマの特徴を融合することで、ビジネスでもレジャーでも活躍する、ダイナミックでオールラウンドな資質を備えたモデルに仕上がっています。実際、新型 Audi A7 Sportback は、クーペのデザインとセダンの居住性、アバントの多用途性を同時に提供しています。インテリアでは、ダイナミックなルーフラインにも関わらず、さらに広くなったスペースと快適になったシートで乗員をもてなします。先代モデルの Audi A7 Sportback と比較すると、室内長は 21mm 拡大され、後席のニールームにさらなる余裕が生まれています。後席については、ヘッドルームも広がっています。またラゲージコンパートメントの幅も拡大されて、1,050mm が確保されるようになりました。

すべて新しくなったシートのなかでも最上級のものが、多様な調整機構とベンチレーション/マッサージ機能を備えた前席のカスタマイズドコンツァーシートです。独立式のリヤシート(2+1 のベンチシートも選択可)も、十分なスペースが確保され、非常に快適な設計になっています。その他、新型 Audi A7 Sportback では、ハイテクなオプションも用意され、室内がより快適で便利な場所になっています。その一つのエアクオリティパッケージを選ぶと、微かな香りを漂わせるフレグランス ディフューザーと、イオン化装置、効率的な複合フィルターの働きにより、車内のエアクオリティが向上します。

スチールとアルミの複合構造を採用し、アドオンパーツなどの大型コンポーネントをアルミ製にしたボディは、ハンドリングと快適性の向上に大きく貢献しています。新型 Audi A7 Sportback のボディはまた、振じり剛性、エアロコースティックス、エアロダイナミクスといった面でも優れた資質を有しています。騒音・遮音対策も改善され、ウインドノイズがほとんど聞こえない室内は非常に静かで快適です。

様々な点で改善されたパノラミックガラスサンルーフは、きわめて大きなガラス面積を誇っており、キャビンにさらなる光を導きます。熱線入りのフロントウインドーやノズルを一体化したワイパーなどをオプションで選択することで、利便性を一層高めることができます。

ダイナミックなエクステリアスタイルにもかかわらず、ラゲージコンパートメントは通常時でも 535ℓ の大容量が確保されています。この容量は、リヤシートを折り畳めば、最大 1,390ℓ まで拡大することもできます。今回、形状を工夫することで、オプションのスペアタイヤを搭載したモデルでも、ゴルフバッグを横にして 2 つ収納できるようになりました。リヤハッチゲートにオプションのセンサー制御機構を追加すると、足のジェスチャーによって自動的に開閉できるようになります。

新型 Audi A7 Sportback はネッカーズルムのアウディ工場生産されます。本国ドイツでは 2018 年 2 月末から販売が始まる予定で、ベース価格は 67,800 ユーロです。

*本リリースは、ヨーロッパ仕様に基づく AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

以上